

古典的ケース 15

女性患者、39 歳。 彼女が治療を求めているのは、両腕の湿疹である。

何ヶ月も治らずにいた。1 人の医者は『ホルモンの原因』を疑い彼女にコーチゾン軟膏を与えた。

彼女の皮膚は概して敏感である。1 年前、オレンジや他の柑橘類の果物を食べて顔に発疹ができた。ワインがさらに悪化させた。

手は、食器洗い用洗剤に対するアレルギーがある。

それは、自然に発生したときと同じようなものだった。

彼女の父はアルコールで亡くなり、その 2 年前に、彼女の母が乳癌にかかった。祖父のひとり、腸癌で 70 才のときに亡くなった。彼女の両親は 13 歳のときに離婚している。

少女時代、彼女は思春期の始まりごろまで、頻繁に咽喉痛があった。

長いドライブの後、ときおり、動くことで緩和される腰痛がある。およそ 2 年間、後方に腕を動かしたり、伸ばしたりすると右肩に痛みがあった。

食欲は？ 彼女は笑う。太るタイプではないので運がよい、と。

好きなものは？ がつつ食べる。でも、自分でコントロールできる。

おいしいものは何でも。特に肉に関していえば、自分を抑制している

娘の良き手本になろうと思っている。

嫌いなものは？

ペッパーステーキやマスタードのような強く味つけた食物。オートミール粥。

彼女は、ガスによって膨張する傾向がある・特にタマネギと生トウガラシの後に顕著。

彼女は、子宮頸部からポリープを削り落とした。

29 才のとき、妊娠 33 週目で流産している。

月経周期は？

27 日。ときおり長くなったり短くなったり、ときには量が他のときより増えたりする。

特にストレスを感じたとき、すぐにおびたたく汗をかく。

ストレスは？ 責任感から。課長代理である。

典型的な 11 月の天気は、彼女を悲しくさせる。でも、健康に留意しているので、ぎらぎらした日光は避けている。冷たい風が苦痛。

朝 5 時半は、ひどい時刻。大嫌いな時間。ほかほかの暖かいベッドから出たくない。まだ疲れているから。暖かさは、彼女の気分をよくさせる。彼女は、かなり寒がりである。

子供の時、睡眠中よく歯ぎしりしたものだ。

夢は？

何も見ない。私は夢をみないと思う。

精神状態は？

全体的に満足している。

彼女は自分のことをどう表現するか？

娘は、私がむら気だと言う。

自分をコントロールすることはできる。

しかし、疲れているときや仕事の後、ときどき、間違った方法でものにあたったりする。

仕事中に、たくさん問題があるといらいらする。

そして、多くのことが要求されていると感じるときも。

伯母や祖母が死んだときの興奮状態と同じである。

決定することが苦手。

他のどこかにいってしまいたいような気分。

それが仕事でであろうと私生活でであろうと。おそらく自信がないせいである。

彼女は何を恐れているか？

小さな犬でさえ避ける。

こどもの頃、地下室に降りたとき怖くてギャーギャー言った。

薄気味悪い探偵映画を見た後、気分が悪くなる。

子供のころ、なかなかの向こうみずだった。

最も高い木によじ登ったり、もっと後では、スポーツ、たとえば乗馬、本当にそうだった。

母親について何を覚えているか？

常に私のためにいてくれた。いい母親だった。

父親について何を覚えているか？

日曜日の朝、革のベルトで私の兄弟をいつもぶっていた。

彼女には、兄がいる。

不当に扱われた人々を助けたいと思う。私の上司は、私が異常な博愛主義者だという。

最も大変な時期はいつだったか？

10年前の離婚の前。ある時点で次第に疎遠になった。

最も大きな問題は、離婚の最終決断をしたこと。

私は片親で、付き合っている人もいない。

ひとりで生きることに充分満足している。

数人の友人がいたが、それを許容するのがだんだん難しくなってきた。

小さな妥協さえする用意ができていない。

一人のときは、私は強い。人間関係は、危機を意味する。

人との接触に少し問題がある。

いつも引っ込み思案で、話しかけるのも好きではない。

彼女は、あがりやすいか？

あらゆる試験の前に、あらゆる授業のテスト、スポーツにおいても。